

# ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアムの 常設展示・企画展覧会・出版物にみる芸術文化政策

— 国立芸術デザイン博物館における英国の装飾芸術文化政策 (3) —

## Art Management Policies on Permanent Galleries, Temporary Exhibitions and Publications of the Victoria and Albert Museum: A Study Series on the National Museum of Art and Design in the U.K. Part 3

新 井 竜 治  
Ryuji ARAI

### 概要

ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム (V&A Museum) は装飾芸術とデザインに関する世界的に重要な博物館であり、多くの国々に模倣された歴史的モデルである。そして創建から 150 年以上経た現在も新たな装飾芸術とデザインの博物館を目指して変革の途上にある先進的な事例である。更にビジネス活動を行う V&A Enterprises という株式会社が付属していて学芸面と商業面を併せ持った事例でもある。V&A Museum に脈々と息づいている考え方は、「コンテンポラリーな（同時代の）デザイナー及び消費者の創造性（クリエイティビティ）を刺激（触発）することがクリエイティブ・デザイン産業の振興に繋がる」というものである。本稿では V&A Museum の常設展示、企画展覧会、出版物に着目し、それらにおける芸術文化政策の特質を明らかにした。

**キーワード：**ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム、装飾芸術、デザイン、クリエイティブ・デザイン産業、芸術文化政策、国立芸術デザイン博物館

### Abstract

Taking the Victoria and Albert Museum, the world's greatest museum of Art and Design, as an example, this study series describes various art management policies on decorative art and design in the U.K. Those policies are typically seen in the V&A Museum's features: history, collections, permanent galleries, temporary exhibitions, publications, research systems, relationships with external organizations, commercial activities, fund raising systems, and relationships with the Creative Design Industries. This paper particularly focuses on its permanent galleries, temporary exhibitions and publications. In conclusion, all the activities of the V&A work together for the promotion of the Creative Design In-

dustries today in the U.K.

**keywords:** V&A, Victoria and Albert Museum, Creative Design Industry, decorative art, design, art management policy

## 目次

1. はじめに
  2. V&A Museum の常設展示
    - 2.1 常設展示と参考資料施設の基本方針
    - 2.2 将来計画
    - 2.3 ブリティッシュ・ギャラリー
  3. V&A Museum の企画展覧会
    - 3.1 企画展覧会の分類
    - 3.2 企画展覧会の全般的な傾向
  4. V&A Museum の出版物
    - 4.1 出版物の分類
    - 4.2 出版物の全般的な傾向
  5. おわりに
- 注  
引用・参考文献

## 1. はじめに

本稿は、装飾芸術とデザインの博物館として世界的に最も重要なロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアムにおける芸術文化政策に関する一連の研究の第三部である。この一連の研究の主たる設問は、「ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアムにおける、装飾芸術とデザインに対する英国の芸術文化政策には、どのような特質が見られるか」というものであり、本研究全体の目的はそれを明らかにすることである。そして第三部では、ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム（以下 V&A Museum と表記する）の常設展示、企画展覧会、出版物に着目し、それらにおける芸術文化政策の特質を明らかにすることを目的とする。

## 2. V&A Museum の常設展示

### 2.1 常設展示と参考資料施設の基本方針

#### 2.1.1 ギャラリーの分類

V&A Museum は可能な限り広く一般公衆に収蔵品を公開することを目指している。調査研究目的であれ、単に興味を充足するためであれ、これらの収蔵品に近づくことは、常設展示ギャラリー（Permanent Galleries）、参考資料施設（Reference Facilities）、企画展覧会（Temporary Exhibitions）、書籍、電子媒体などを通して容易になっている。

V&A Museum 本館には 150 近くの常設展示ギャラリーがある。これは大きく 2 つの部分に分かれている（図 1）。第一は「芸術・デザイン・ギャラリー」（Art and Design Galleries）である。これは 1・2 階にあり、主玄関を入ってすぐの「歓迎スペース」（Welcome Zone）沿いにある。この「芸術・デザイン・ギャラリー」は、文化的区分によって更に「アジア」と「ヨーロッパ」に分かれている。第二は「材料・技術・ギャラリー」（Materials and Techniques Galleries）である。3・4 階の殆どのギャラリーがこの材料と技術ごとの分類によって展示されている（V&A Collections 2003：p.15）。

V&A Museum では自らを芸術とデザインの博物館と呼称しているが、収蔵品に芸術的な価値やデザインの価値を見出すだけでなく、材料的な価値や技術的な価値を同時に見出している。これは英国における装飾芸術品に対する芸術文化政策の重要な特徴の 1 つとして特筆されるべきである。論者も英国家具史の研究において、この視点の影響を色濃く受けた。英国家具史研究家たちは、家具工房の研究に当たって芸術的価値やデザインの価値と共に使用された材料や適用された技術についても調査して考察することが多い<sup>1</sup>。

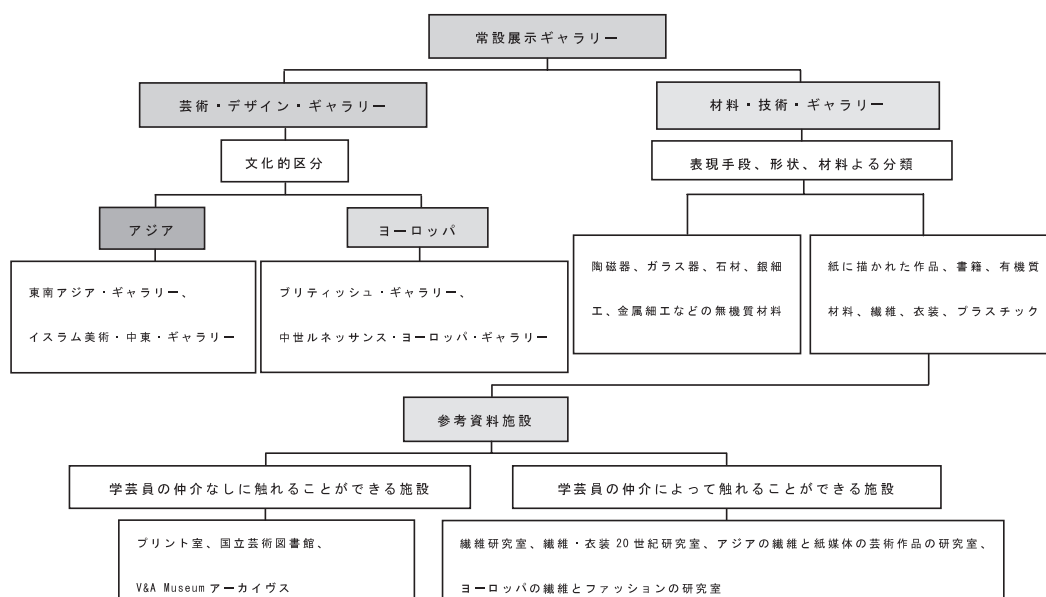


図 1：V&A Museum 常設展示ギャラリーの分類（新井竜治作成）

さて、第一の「芸術・デザイン・ギャラリー」の1つに、2001年暮れに改装が完了した「新・ブリティッシュ・ギャラリー」がある。これは1400年から1900年までの英国における芸術とデザインの発展史を概観できるものになっている。展示品は基本的に年代順に配置されている。そして様式、趣味の先導役、何が新しかったかなどのテーマごとに編集されている。また近々、中世・ルネッサンス・ヨーロッパ・ギャラリーや、イスラム美術・中東・ギャラリー、東南アジア・ギャラリーなどの改装が予定されている（前掲書：p.15）。

V&A Museum は、装飾芸術とデザインにおける専門技術・参考資料・調査研究の中心地であることを自負する博物館にふさわしく、百科事典的に収蔵品を収集してきた。そこで第二の「材料・技術・ギャラリー」の役割は、文化的背景を探る目的の「芸術・デザイン・ギャラリー」を補完することである。そのためこのギャラリーでは展示品を表現手段、形状、材料によって整理分類している。このギャラリーはヨーロッパ、アジアを問わず、すべての地域の収蔵品から構成されている。その目的は、それらの物の製造過程および使用環境を探求することである（前掲書：p.16）。

ところで「材料・技術・ギャラリー」の内、陶磁器、ガラス器、石材、銀細工、金属細工などの無機質材料を使用しているものに関しては、一般公衆が容易に鑑賞することができるように、可能な限り多くの収蔵品を展示することを心掛けている（前掲書：p.16）。

ところが、紙に描かれた作品、書籍、有機質材料、プラスチック、繊維、衣装などの様々な材料に関しては、光線による取り返しのつかない損傷が起きる危険性があるので、常設展示が不可能である。そこで、これらの材料を使用している収蔵品については、「材料・技術・ギャラリー」が調査研究室への案内役を果たすことになっている（前掲書：p.16）。

そして参考資料施設としては、学芸員の仲介無しで紙、書籍、繊維に表現された芸術作品に実際に触れることができる施設と、学芸員の仲介によってだけ触れることができる施設とがある。前者はプリント室（Print Room）、国立芸術図書館、ブリーズ・ハウス（Blythe House）に置かれている V&A Museum アーカイヴスが収蔵している芸術・デザイン・アーカイヴ、ビアトリックス・ポッター・コレクションなどである。後者は繊維研究室（Textile Study Rooms）、繊維・衣装 20 世紀研究室（Textiles and Dress 20th Century Study Room）、アジアの繊維と紙媒体の芸術作品の研究室（Asian Textiles and Works of Art on Paper Study Rooms）、ヨーロッパの繊維・ファッション研究室（European Textiles and Fashion Study Rooms）である（前掲書：pp.16-17）。

## 2.1.2 産業振興とインスピレーションの場

現在の V&A Museum の活動目的は、「すべての人が収蔵品〔である装飾芸術品とデザイン〕を楽しむことを可能にすること、及び、それら〔の作品〕を生み出した文化〔背景〕

を探ることを可能にすること、そしてコンテンポラリーな〔同時代の〕デザインを制作する人々を触発すること」（V&A Collections 2003：p.1）である。したがって、V&A Museum が第一番に触発させ、発奮させ、鼓舞させたいのは、産業界の人々であると考えられる。

しかし、『収蔵品管理方針』の「常設展示ギャラリー」に関して述べられている箇所から、特に「芸術・デザイン・ギャラリー」は色々な層の観衆が来場することを想定していることが判る。その層とは、「家族」、「学校」、「学生」、「クリエイティブ産業に従事する専門家」、「各種団体」、「いずれにも属さない成人市民」である（V&A Collections 2003：p.15）。そしてあるグループに属する観衆は、時と場合によっては他のグループに属することもある。例えば、学校と一緒に訪問した学生が別の機会に個人的な調査研究で再度訪問することもあり得る。家族、学校、学生はクリエイティブ・デザイン産業に直接的に貢献するわけではない。しかし、学生は将来クリエイティブ・デザイン産業に従事する可能性を持っている。過去に開催された企画展覧会においても、V&A Museum の収蔵品に触発された学生の作品を展示するものがあった。また、家族はクリエイティブ・デザイン産業が生産する製品を購入する可能性を持っている。また、V&A Enterprises のライセンス部長（当

表 1：各ギャラリーが想定する観衆の層と学習モデル（新井竜治作成）

芸術・デザイン・ギャラリー		材料・技術・ギャラリー	
想定する観衆の層	想定する学習モデル	想定する観衆の層	想定する学習モデル
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族</li> <li>・学校</li> <li>・学生</li> <li>・クリエイティブ産業の専門家</li> <li>・各種団体</li> <li>・一般成人市民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析的な人</li> <li>・想像力豊かな人</li> <li>・常識的な人</li> <li>・経験から判断する人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立した学習者</li> <li>・プロ・アマ専門家</li> <li>・学校団体</li> <li>・生涯学習者</li> <li>・高等教育機関学生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析的な人</li> <li>・常識的な人</li> <li>（想像力豊かな人）</li> <li>（経験から判断する人）</li> </ul>

表 2：学習タイプを構成する要素（新井竜治作成）

学習タイプ	要素 1	要素 2	要素 3
分析的な人	考 察	観 察	知的理解
想像力豊かな人	感 覚	観 察	異なった視点からの観察
常識的な人	考 察	行 動	実際的使用方法模索
経験から判断する人	感 覚	行 動	手を使う

表 3：学習タイプを構成する要素が要求するものに対する対応例（新井竜治作成）

要 素	対 応 例
観 察	ペンライト、家具内部公開、オリジナル図面、移設された室内の断面を見せる
考 察	説明文、説明パネル、動画の使用、収蔵品の分類を超えた組合せ
行 動	実際に手で触る、組み立てる、身体に纏ってみる
感 覚	視覚（色彩・光）、聴覚（音）、触覚（手、身体）

時)のヘザー・カー女史がインタビューの中で語っていたように、一般公衆が陶芸や編物などの企画展覧会や常設展示を見た後に、自分で編物を習ったり、陶芸教室に通い出したりすれば、それはそれで立派なインスピレーション(触発)である。つまり V&A Museum が想定している教育普及活動では、調査研究という狭義の教育が核となり、それを取り囲むものとして触発(インスピレーション)という概念がある訳だ(V&A Enterprises ライセンス部長(当時)ヘザー・カー女史とのインタビュー、2004年8月20日)。したがって、これらすべての人々が V&A Museum の使命を全うするために触発すべき観衆である。

更に『収蔵品管理方針』の「常設展示ギャラリー」に関する記述には、観衆の学習モデルの違いにも対応できるように常設展示ギャラリーを設計する必要があることが記されている。特に「芸術・デザイン・ギャラリー」を見学する観衆の中には「分析的な人」、「想像力豊かな人」、「常識的な人」、「経験から判断する人」がいると分類している。分析的な人は考察と観察によって学び、知的理解を得ることを求める人である。想像力豊かな人は感覚と観察によって学び、異なった視点からの観察を通して学ぶ人である。常識的な人は考察と行動によって学び、実地的な活用方法の探究をする人である。経験から判断する人は感覚と行動によって学び、基本的に手に取ってみるという経験から学ぶ人である(V&A Collections 2003 : p.15, 表1, 表2)。

一方、「常設展示ギャラリー」の「材料・技術・ギャラリー」がその観衆として想定している人々は、「独立した学習者」、「プロ・アマを問わず専門家」、「学校団体」、「生涯学習者・高等教育機関の学生」である。そしてこのギャラリーの学習モデルは、どちらかと言えば「分析的な人」、「常識的な人」である。しかしながら「想像力豊かな人」、「経験から判断する人」にも同様の興味を興させる仕掛けを作る必要があるとしている(前掲書 : p.16, 表1)。

このように V&A Museum では、色々な層の様々な学習モデルをもった人々を触発し、鼓舞し、発奮させることを方針として掲げているのである。

## 2.2 将来計画

その前身から数えて150年以上の歴史を有する V&A Museum は、現在「将来計画」(Future Plan)という大改装計画の真只中である。これは迷宮のように林立する V&A Museum 本館の建築物の歴史と品質を保ちつつ、21世紀の芸術デザイン博物館にふさわしい姿に変身させる大偉業である。「将来計画」における「展示」に関する方針には、収蔵品が美しく展示されて容易に理解されること、想像力をもっと掻き立てる展示にすること、展示品に関する情報量が豊富なこと、収蔵品を生み出した文化背景が表出する仕掛け、高度な情報技術を用いて展示品を説明することといった特徴がある。次に「配置」に



関する方針には、**V&A Museum** の建築が元々持っている優良性が強調されること、これまで隠されていた空間が新たに開放されること、明快な配置計画といった特徴が見られる。そして「教育」に関する方針には、教育プログラムの拡充と施設の整備、学生・教育研究者・クリエイティブ産業・一般公衆にとって真に価値ある資源になることといった特徴が見られる（**V&A-Future Plan** ホームページ）。

この計画では、**V&A Museum** 本館を1つのシティとして認識している。それは新たに改造された中庭を囲んで、そこを拠点としてその周囲に様々なギャラリーが連なるように再計画するというイメージを持っている。「芸術・デザイン・ギャラリー」では違う種類の収蔵品が混ぜ合わされて、それらの収蔵品のもつ文化背景が表出してくる仕掛けになっている。「材料・技術・ギャラリー」は地域的に広範囲で年代的にも幅広い収蔵品から様式と材料と技術について調査研究できるように展示されている。「モダン・デザイン・ギャラリー」では20世紀の国際的なデザインに関する豊富な収蔵品から学べるようになっている。「学習区画」には教育センター、セミナー室、工房、団体用施設、館内勤務芸術家（**Artists in Residence**）のための工房空間があり、大人から子供まで参加できるプログラムが提供されている（**V&A-Future Plan** ホームページ）。

この「将来計画」は、2001年暮れに完成した「芸術・デザイン・ギャラリー」の1つである「新・ブリティッシュ・ギャラリー」において著しい成果を挙げている。2005年末時点で既に完成しているその他の「将来計画」は、「コンテンポラリー・ギャラリー」、「銀細工ギャラリー」、「写真ギャラリー」、「主玄関の改良」、「絵画ギャラリー」、「彫像ギャラリー」、「建築ギャラリー」、「金属細工ギャラリー」、「コンテンポラリー・ガラス・ギャラリー」、「細密画ギャラリー」、「新たな案内表示の導入」、「**V&A / RIBA** 図書室」、「**V&A** メンバールーム」そして「中庭」である（**V&A-Future Plan** ホームページ）。

現在進行中の計画は、「芸術・デザイン・ギャラリー」に属する「中世・ルネッサンス・ギャラリー」、「イスラム・中東・ギャラリー」の改装事業である。これらのギャラリーについてはそのレベルを、2003年ヨーロッパ博物館賞を受賞した新・ブリティッシュ・ギャラリーのレベルにまで引き上げることが目標である。そして「材料・技術・ギャラリー」に属する「英国彫像ギャラリー」、「宗教的銀器・ステンドグラス・ギャラリー」、「宝飾品ギャラリー」に関しても更にレベルを引き上げて、観衆が全収蔵品をより深く探求できるようにするという目標が設定されている。また教育プログラムと教育施設の拡充の一環として「教育センターの改修」が現在進行中である。更に身体の不自由な方のための建築的改修工事、特に上下階の移動設備の拡充もなされている（**V&A-Future Plan** ホームページ）。

中庭周辺には、2006年以内に「**V&A** ショップ」が拡大移転される予定である。主玄関を入れて真正面に大規模なミュージアム・ショップが出現するようになる。ここは

V&A Museum に作品が収蔵されている著名でコンテンポラリーなデザイナーの作品を実際に購入することができるショップになる。勿論、研究著作などの美術書のコーナーもあれば、おみやげ品やギフト品のようなものも扱う。また現在ある簡単な軽食堂（カフェ）に加えて、歴史的なモリス・ルームには正式な食事ができる「レストラン」が作られる予定になっている。そして 2005 年に改造が終わった中庭（図 2・図 3）は 21 世紀にふさわしい姿になった（V&A-Future Plan ホームページ）。

残された計画は「陶磁器ギャラリー」と「ボイラーハウス・ヤードの新しい建築」である。このサウス・ケンジントンの V&A Museum 本館が位置する敷地内に唯一残された場所、かつてのボイラー・ハウス・プロジェクトが行われた場所には、設計コンペで選ばれたダニエル・リーベスカインド（Daniel Libeskind）のスパイラル状の新たな建物が建築される予定である。これによって「将来計画」は一応の完成を見ることになる。尚、地下鉄サウス・ケンジントン駅から V&A Museum 主玄関までの直通地下道の建設工事なども計画されているらしい（V&A-Future Plan ホームページおよび実地観察）。

この計画の進行過程から判る特徴は、「将来計画」という大事業に際して、新しい建築物をまず建てるのではなく、既存のギャラリーの改装から始めたことである。それと平行して収蔵品部門下の各部署を統合して、学芸員に刺激を与え、人的資源を有効活用した点である。新事業や改革を成し遂げるためには、内部の改革こそ先行しなければならないことを如実に物語っている。そしてその改革を先導するために打ち上げられて計画が、2001 年暮れにオープンして好評を博した「新・ブリティッシュ・ギャラリー」であった。そしてこのギャラリーが 2003 年のヨーロッパ博物館賞を受賞したことから（図 4）、一気に波に乗って改革の全プログラムが動き出したのである。この「将来計画」の只中で今回 V&A の歴史と活動に関して調査研究をさせていただいたことは幸いであった。



図 2：中庭 2004 年（新井竜治撮影 2004.8.20）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM



図 3：中庭 2005 年（新井竜治撮影 2005.9.8）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM



### 2.3 ブリティッシュ・ギャラリー

「ブリティッシュ・ギャラリー」は元々「入門ギャラリー」のひとつとして、1400年から1900年までの英国デザインの流れを概観できるように、主玄関入って直ぐ左手の部分に設営されたものである。この「入門ギャラリー」は現在「芸術・デザイン・ギャラリー」と呼ばれ、「ブリティッシュ・ギャラリー」はその中心的なギャラリーである。そしてこの度「将来計画」の先導役として改装され、2001年暮れに新たにオープンした。

「芸術・デザイン・ギャラリー」が想定する観衆の学習タイプは「分析的な人」、「想像力豊かな人」、「常識的な人」、「経験から判断する人」である。それぞれの学習タイプに見られる要素を抜き出すと表2のようになる。その主な要素とは「観察」、「考察」、「行動」、「感覚」の4つである。この表2から判るように、それぞれの学習タイプに属する人々は、4つの要素のうち2つを合わせ持つと仮定されている（V&A Collections 2003：p.15）。そこでこれらの要素が要求するものを満たすために新しいブリティッシュ・ギャラリーにはどのような仕掛けがあるのかを、論者が観察して得られた具体例を交えて記述する（表3）。

「新・ブリティッシュ・ギャラリー」では、第一の「観察」に対して、展示品を詳細に観察することができるように様々な工夫がなされている。これまでは限られた研究者だけが、興味を覚えた収蔵品を当該収蔵品部門の学芸員と予約の上で収蔵ケースから出してもらい詳細な調査ができた。勿論この伝統は続いているが、新しい展示では学芸員が展示品をケースから出さなくても、興味深い詳細を見ることができる仕掛けがある。具体的な例は、ペンライトを付属させる（図5）、キャビネット等の箱物家具の扉を開けて内部を常時見せる（図6）、収蔵品のオリジナルデザイン画を引出式トレーで見せる、19世紀の百貨店の複製カタログを手でめくらせる、移設された室内の断面を見せる（図7）などである。

第二の「考察」に対しては、展示品をより深く知り、考えることができるような様々な工夫がなされている。まず展示ラベルの説明書きの文字が大きくなったばかりか、その説明文がより詳細なものになった。館内でのフラッシュを用いた写真撮影は、極一部を除き、完全に自由であるため、学生や研究者にとってはこのラベルを撮影すれば済み、ラベルを書き写す時間が短縮される。また壁面にはラベルでは説明しきれない詳細な内容を記した説明パネルも設置されるようになった。また、最新の情報機器を用いて要求に応じて動画を見ることができるようになった。この動画では具体的な製造工程などが映し出される（図8）。そして異なった視点から観察して考察できるように、あるデザインの様式ごとに、収蔵品部門の分類の枠を超えた組合せをした展示が見られる（図9）。

第三の「行動」に対しては、観衆が実際に身体を動かして体験してみることができる様々な展示の仕掛けが至る所にある。例えば、以前はベッドフレームだけが無造作に置かれていたエリザベス朝のベッドのベッドリネンが復元されて展示されるようになったが、

ただベドリネンを復元しただけでなく、それに使われた材料のサンプルを実際に手で触れて確かめられる。観衆は復元されたベドリネン自体には触れないが、その代替としてサンプルには触れられるのである（図10・図11・図12）。そしてそのベドリネンの構造についての詳しい説明パネルも壁面に掲示されている（図13）。

次に自分で組み立てる仕掛けもある。例えば、18世紀中頃のマホガニー製椅子の複製品部材がある。その組み立て方を示すパネルが掲示してあるので、観衆は実際に組み立てることができる。これと同等の複製椅子は現在も市場で販売されている（図14・図15・図16）。更に19世紀のペチコート等を実際に身体に纏ってみる仕掛けもある（図17）。



図4：2003年度ヨーロッパ博物館賞（新井撮影 2005.9.6）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM



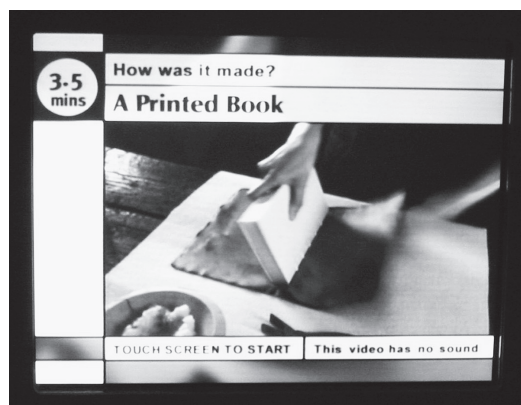
図5：ペンライト（新井竜治撮影 2005.9.8）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM



図6：箱物家具の扉の内部公開（新井撮影 2005.9.8）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM



図7：移設室内の断面（新井竜治撮影 2005.9.8）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM





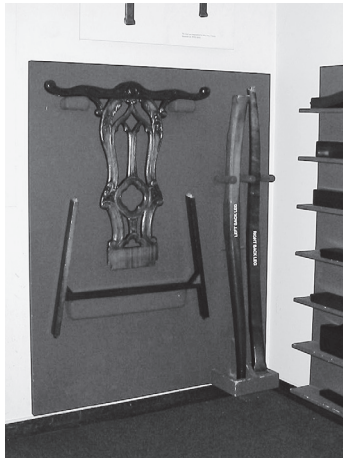


図 14：椅子部材（新井竜治撮影 2005.9.8）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM



図 15：椅子完成（新井竜治撮影 2005.9.8）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM

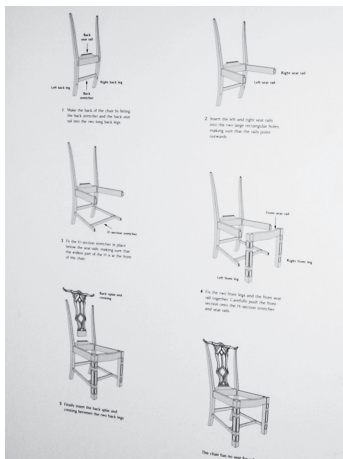


図 16：椅子組立説明パネル（新井竜治撮影 2005.9.8）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM

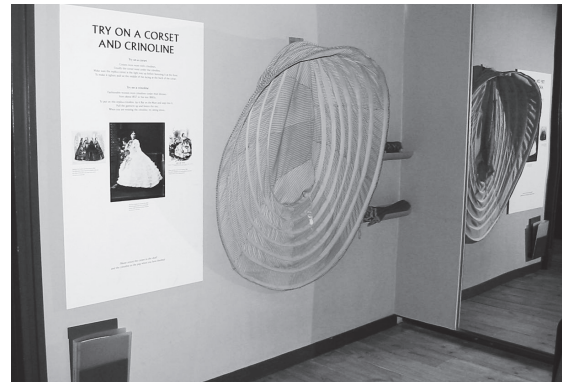


図 17：身体に纏う（新井竜治撮影 2005.9.8）  
©V&A IMAGES / VICTORIA AND ALBERT MUSEUM

第四の「感覚」に対しては、特に視覚、聴覚、触覚の感覚器官を刺激するような様々な工夫がされている。視覚の点からは色彩と光の効果的な使用を挙げることができる。展示品保護のために館内の照明には厳しい規制がある。しかしその規制を遵守する以上に照度を落としている部屋がある。それはオーク材のパネルに囲まれた室内の暗さを再現するために故意に暗くしたとしか考えられない空間である。聴覚の点からは、例えば展示されている楽器が奏でる音楽を数曲予め録音しておき、要求に応じて再生する機器を備えている。また触覚の点からは、実際に手や指の感覚を使う数々の触って確かめるサンプルが展示されている。また全身の皮膚感覚を使うことになる着衣などのコーナーもある。

「新・ブリティシュ・ギャラリー」のプロジェクトでは、収蔵品部門から横断的に主要な学芸員が「調査部門」に集められた。この「調査部門」に配属されると通常の学芸員が受け持つ日常業務から完全に開放されて、そのプロジェクトに専念できる。この「新・ブリティシュ・ギャラリー・プロジェクト」に出向して、実際に計画業務と実行作業に携

わった学芸員スタッフがその報告書および評価書を作成している。これは『*The Making of the British Galleries at the V&A: A Study in Museology*』（WILK & HUMPHREY eds.: 2004）として 2004 年末に出版された。新しいブリティッシュ・ギャラリー計画の詳細についてはこの書物を参照していただきたい。論者はその著者の一人セーラ・メドラム女史にインタビューしたが、その数週間前、タイ博物館のスタッフがこの新しいブリティッシュ・ギャラリーのアイデアを自国に持ち帰るために見学に来たという（家具・繊維・ファッション部門学芸員セーラ・メドラム女史とのインタビュー、2004 年 8 月 20 日）。

### 3. V&A Museum の企画展覧会

企画展覧会とは、常設展示では通常展示することができない収蔵品を一般公衆に公開するために企画された展覧会である。また常設展示されている収蔵品を館外から借用した物と一緒にして、違う文脈の中で展示する機会でもある（V&A Collections 2003：p.17）。

V&A Museum の企画展覧会と出版物については、エリザベス・ジェームスが編集した資料（JAMES 1998）がある。本章の研究ではそれを基に論者が独自に分類・集計作業を行った。尚、ジェームスの資料は 1852 年から 1996 年までしかないので、1997 年以降 2002 年までについては、V&A ホームページ上で公開されている複数年次研究報告書（*V&A Research Report*）の企画展覧会に関する資料を基に分類と集計作業をした（V&A-Exhibitions 1997-1999 および V&A-Exhibitions 2000-2002）。

ところで、V&A ホームページ上で公開されている複数年次研究報告書の企画展覧会に関する資料の 1995 年と 1996 年を、エリザベス・ジェームスが編集した資料の同年と比較してみたところ、複数年次研究報告書の方がジェームス作成資料よりも企画展覧会の開催件数が若干少なかった。すなわち記入漏れがある。しかしながら、1997 年以降に関しては、エリザベス・ジェームスが作成したものと同じ程度の基準によって編集された企画展覧会の資料が無い以上、この複数年次研究報告書の中の企画展覧会に関する資料を使用せざるを得なかった。よって 1996 年以前と 1997 年以降では、その資料の質に若干の差異がある。

また、例えば 1999 年から始まったファッション・イン・モーション（Fashion in Motion）についてであるが、1997-99 年の企画展覧会一覧には、1999 年に 8 回<sup>2</sup>のショーが企画展覧会として掲載されている。ところが、2000-2002 年の企画展覧会一覧には、ファッション・イン・モーションと関連のある静的な企画展覧会が 1 つ掲載されているだけで、ファッション・イン・モーション自体は掲載されていない。これはファッション・イン・モーションが特別活動（Special Activities）として認識されたため、企画展覧会としては数えられなくなったためではないかと思う。このように複数年次研究報告書の



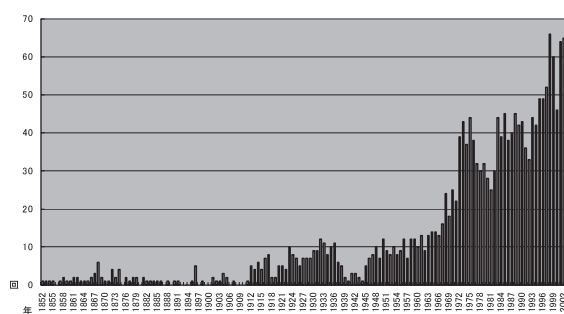


図 18：V&A Museum 企画展覧会の年間開催件数  
(1852 年～2002 年) (新井竜治作成)

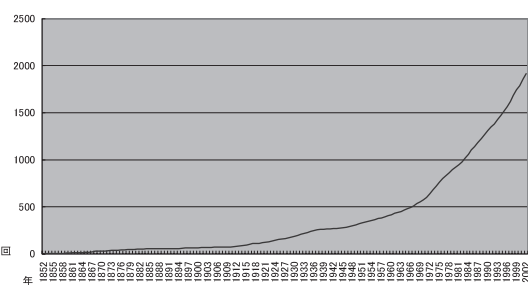


図 19：V&A Museum 企画展覧会の開催累計数の  
推移 (1852 年～2002 年) (新井竜治作成)

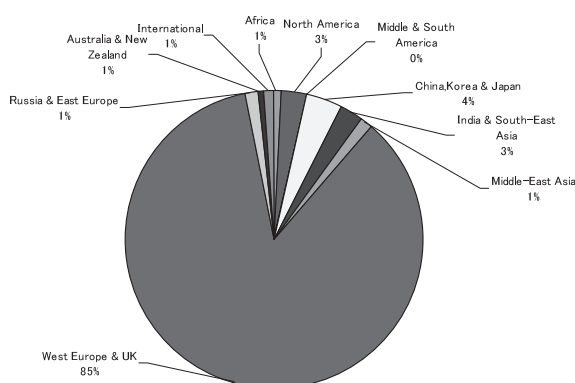


図 20：V&A Museum 企画展覧会の地域別の開催  
件数割合 (1852 年～2002 年)  
(新井竜治作成)

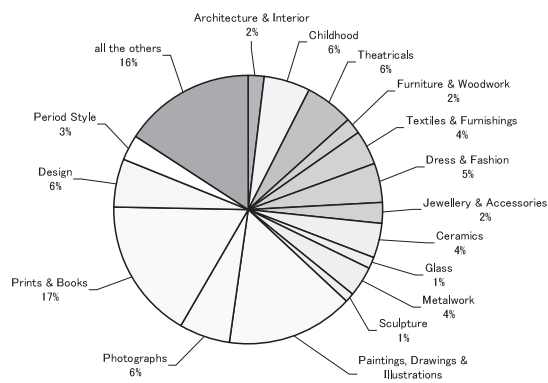


図 21：V&A Museum 企画展覧会の分野別の開催  
件数割合 (1852 年～2002 年)  
(新井竜治作成)

中にまとめられている 1997 年以降の企画展覧会に関する資料には一貫性に欠ける部分が若干ある。

それから、企画展覧会は複数年にまたがって開催されることもある。その場合はすべて企画展覧会初日の年に当該展覧会を分類した。エリザベス・ジェームス編集の資料はすべてこのように分類されている。したがって 1997 年以降の企画展覧会も同様に分類した。

1997 年から 2002 年の複数年次研究報告書にあるギャラリーの展示替えについては、1996 年以前のデータが入手できなかったので、あえて集計しなかった。

具体的な集計結果「V&A Museum の企画展覧会の地域別集計・分野別集計」は紙面の関係で割愛する。その集計結果をグラフにしたものを図 18 から図 21 に示す。

### 3.1 企画展覧会の分類

現在の V&A Museum の収藏品部門は「アジア地域」と「ヨーロッパ地域」とに大きく分かれている。「ヨーロッパ地域」は 3 部門あり、それぞれの部門の下には幾つかの部署がある。そしてその分類基準は使用されている主要な「材料」である。ところが、「アジア

地域」は1つの部門だけであり、その下には3つの部署があるが、その分類基準は「地域」である。このように「ヨーロッパ地域」は「材料」、「アジア地域」は「地域」によって分類されている。企画展覧会の収蔵品部門の担当部署もこの基準によって決められる。

しかし、V&A Museum の企画展覧会の「地域別特性」と「材料分野別特性」を客観的に観察するためには、その両方について等しく集計する必要があった。ここに今回論者が行った分類・集計作業の独自性がある。

### 3.1.1 企画展覧会の地域別分類基準

V&A Museum における企画展覧会の地域別の分類は以下の通りとする。すなわちアフリカ、北アメリカ、中央・南アメリカ、中国・韓国・日本、インド・東南アジア、中東、西ヨーロッパ・英国、ロシア・東ヨーロッパ、オーストラリア・ニュージーランド、国際である。尚ここでいう「地域」とは、芸術作品が制作された地域、工業製品が生産された国・地域を指し、国際的なデザイナーの作品の場合は活動の中心地とした。これは論者独自の分類である。

### 3.1.2 企画展覧会の材料分野別の分類基準

V&A Museum の企画展覧会に出品された展示作品の材料分野別の分類は以下の通りとする。建築・インテリア、子供、演劇、家具・木工、繊維、衣装・ファッション、宝飾品・服飾品、陶磁器、ガラス器、金属細工、彫像、絵画・素描・イラスト、写真、版画・印刷・書籍、デザイン、様式、その他である。これは論者独自の分類であり、第二部で述べた V&A Museum の収蔵品管理方針に示された分類に準じる。

複数の分野に跨っている展覧会に関しては、それぞれの分野に等分の点数を付けた。例えば、Photographs of English medieval architecture and sculpture (VX.1933.003) は、写真、建築、彫像に各1／3点を加算した。2つの分野に跨る場合は各1／2点、4つの分野に跨る場合は各1／4点である。5つ以上に跨る場合は「その他」に分類した。

これ以外の留意点として、アーカイヴス (archives) は、媒体が印刷物、書籍、スケッチなどに関わらず、内容に関連の深い分野に分類した。また、1998年と99年には、ホームページ (Web Pages) によって行われた企画展覧会があったが、その内容によって関連の深い分野に分類した。それから、企画展覧会と同時に発行された図録の副題から判断して分類したものもある。例えば、British art (VX.1934.002) と言えば、英国 (ブリテン島) の芸術・美術全般とも解釈できるが、企画展覧会と同時に発行された図録の副題から、それが「素描と絵画」 (drawings & paintings) であることが判明したので、この展覧会を絵画に分類した。そして個人名の企画展覧会の場合は、その個人がどのような分野の芸術家なのかをインターネットで検索してひとりひとり確認した。正確を期すために V&A Museum の収蔵品検索も並行して利用し、V&A Museum が収蔵している当該芸術家の作品を確認して、分類先の分野を確定した。尚、分類作業にミスがないように、同じ

作業を150年分2回行った。

### 3.2 企画展覧会の全般的な傾向

V&A Museum の企画展覧会の全般的な傾向として第一に指摘しなければならないのは、近年企画展覧会の年間開催件数が飛躍的に伸びたことである。これは図18および図19から明らかである。特に1970年代以降、企画展覧会の年間開催件数が著しく伸びたことが判る。詳細に述べると、1968年に企画展覧会の年間開催件数が初めて20件を超え、1973年には40件を超え、そして1998年以降は毎年60件を超えている。第二にエリザベス・エスティヴ＝コール元館長が指摘しているように、企画展覧会の年間開催件数が増えただけでなく、多数の来場者を迎える大規模企画展覧会が多数開催されたことも重要である（エリザベス・エスティヴ＝コール 1992：p.7）。

次に図20から、V&A Museum 企画展覧会の地域的な特性として第一に指摘したいのは、過去150年間の企画展覧会の85%が西ヨーロッパおよび英国の装飾芸術とデザインに関連したものであったことだ。これは19世紀中頃の英国経済が仏国からの高級輸入品に悩まされていたために、ヨーロッパ大陸諸国の装飾芸術とデザインに追いつけ追い越せの勢いで万国博覧会を開催し、サウス・ケンジントン博物館を開設した歴史を振り返れば当然の結果であろう。地域別分類の残り15%の内一番大きな割合を占めるのは、中国・朝鮮半島・日本の極東アジアの装飾芸術とデザインに関する企画展覧会であり、これが第二の点である。英国の装飾芸術の歴史を辿ると、18世紀中頃にロココ様式が英国に広まった時期に、これと平行してシノワズリ様式すなわち支那趣味が流行した<sup>3</sup>。またヴィクトリア女王が即位する前の19世紀初頭にも中国・インド様式が流行した<sup>4</sup>。今でも英国には「西洋と東洋がお互いを意識し合っている」という認識が強くある。そして意外にも、インド博物館時代を含むすべての期間を集計しても、インド・東南アジア地域の装飾芸術とデザインに関する企画展覧会の開催件数割合の順位は第三位であった。

さらに図21から、V&A Museum 企画展覧会の材料分野別の特性として第一に指摘したいのは、過去150年間の企画展覧会で開催件数が一番多かった分野は、全体の15%を占める版画・印刷・書籍だったことだ。これは国立芸術図書館主催の企画展覧会の開催件数が多かったことによる。そして現在の文書画像部門の収蔵品である絵画・素描・イラスト、写真、版画・印刷・書籍、デザインを全部合わせると44%を占めることになる<sup>5</sup>。次に、家具・繊維・ファッション分野は全部合わせて13%、彫像・陶磁器・ガラス器・金属細工の分野は全部合わせて10%と意外に低い。そしてこの両者の合計は23%であり、全体の約1/4を占める。以上からV&A Museum は装飾芸術およびデザインの博物館であることが明らかである。また子供関係と演劇関係は共に6%で比較的目標立っている。ある特定のスタイルを特集した企画展覧会も3%であり、企画展覧会のあり方を考える上

で重要な要素であることを示している。そして建築・インテリア関係は2%である。残念ながら今回は過去の展覧会カタログを実際に見ながら集計作業を行った訳ではなかった。そのため分類不能として「その他」に分類せざるを得なかったものが比較的多く発生した。この点の改善は今後の調査に期待したい。

最後に、絵画の企画展覧会では英国の国民的な画家である「コンスタブル」の企画展覧会の開催件数が格段に多かったことを指摘しておく。これはまず V&A Museum が非常に多くのコンスタブルの作品を収蔵していることと関係している。すなわち「常設展示で展示しきれない国家財産である収蔵品については企画展覧会を開いて一般公衆に広く公開する」という基本方針に従ってきたわけである。しかしそれと併せて、コンスタブルは英国人にとって圧倒的人気を誇る画家のひとりであることを物語っている。

#### 4. V&A Museum の出版物

##### 4.1 出版物の分類

本章の研究でも、エリザベス・ジェームスが編集した V&A Museum の企画展覧会と出版物に関する資料 (JAMES 1998) を基に、論者が集計作業を行った。ジェームスは V&A Museum に関連のある書籍を大きく2つに分けている。第一は「V&A Museum もしくは V&A Publications によって出版された書籍」である。第二は「V&A Museum に関連があるが、V&A 以外の出版社によって発行された書籍」である。ここではその分類に従った。

しかし出版物に関しては、時間的制約のため、V&A Museum の企画展覧会を「地域別」、「材料分野別」に分類・集計したようには整理することが出来なかった。本章では、ジェームスの資料を基に論者が作成した「V&A 出版と V&A 企画展覧会の個別集計・相互関係集計表」から明らかになった、V&A 関連の出版物の全般的な傾向を記述するに留める。具体的な集計結果は割愛し、結果に基づいて作成したグラフを図 22 から図 24 に示す。

##### 4.2 出版物の全般的な傾向

###### 4.2.1 V&A 関連の出版物の概要

ジェームスの資料に基づけば、1852 年から 1996 年までの間に「V&A Museum もしくは V&A Publications が出版した書籍」の総数は 2,356 冊であった。その内、V&A Museum の企画展覧会に関係するものは 556 冊であった。これは全体の約 24% 程度である。つまり、V&A 自身の出版物は必ずしも企画展覧会の図録ばかりではなかった。残りの 76% は、いわゆる収蔵品カタログであったと思われる。つまり常設展示の各ギャラリー

や収蔵庫内の収蔵品に関する調査研究の成果をまとめたものである。そのほか V&A Museum 自体の解説といったものもある<sup>6</sup>。また論者が作成した集計表では、ジェームスの編集方針に則り同年内の再刷・異形状版は除くが、同年内または後年の改定版は数に含むとした。この収蔵品カタログの改訂版の出版が多かったことも先ほどの理由の1つである。

またジェームスの資料に基づけば、1852年から1996年までの間に「V&A Museumに関連があるが、V&A以外の出版社によって発行された書籍」の総数は577冊であった。その内、V&A Museumの企画展覧会に関係するものは381冊であった。これは全体の約66%程度である。つまり、V&A以外の出版社がV&A Museumに関する書籍を出版した機会は、その殆どが企画展覧会と連動する場合であったことを物語っている。

ところでジェームスは、「V&A MuseumもしくはV&A Publicationsが出版した書籍」と「V&A Museumに関連があるが、V&A以外の出版社によって発行された書籍」を編集して年代順に並べて、それぞれについて「V&A Museumの企画展覧会」との関係を示した。同様に「V&A Museumの企画展覧会」を編集して年代順に並べた際にも、それぞれについて各種出版物との関係を示した。すなわちクロスリファレンスを付した訳である。しかしこれを論者が集計したところ、5%程度の若干の誤差が生じている。人的な編集作業のために生じた誤差であろう。この誤算は全体の傾向を掴む目的に照らした場合、許容範囲内であると考え<sup>7</sup>。

最後にジェームスの資料に基づけば、1852年から1996年までに開催された企画展覧会の総数は1,566回である。しかし「V&A MuseumもしくはV&A Publicationsが出版した書籍」と「V&A Museumに関連があるが、V&A以外の出版社によって発行された

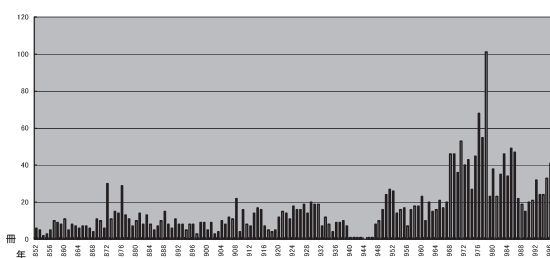


図 22：V&A 発行書籍の年間発行タイトル数  
(1852 年～1996 年) (新井竜治作成)

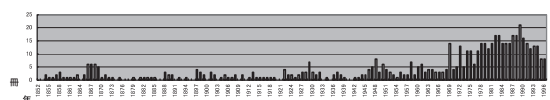


図 23：V&A 発行以外の V&A 関連書籍の年間発行タイトル数 (1852 年～1996 年)  
(新井竜治作成)

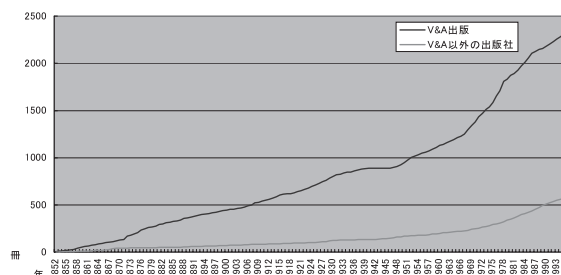


図 24：V&A 関連書籍の発行タイトル累計数の推移  
(1852 年～1996 年) (新井竜治作成)



書籍」のうち「V&A Museum の企画展覧会」に関連のある書籍の総数を出してみると、双方とも多い方をとって合計しても 971 冊にしかない。これは企画展覧会総数の 62%にしかない。このことから判るのは、「V&A Museum の企画展覧会」すべてについて展覧会図録が発行された訳ではなかったという事実である。

#### 4.2.2 V&A による出版物

1852 年から 1996 年までの「V&A Museum または V&A Publications によって発行された書籍」の年間発行タイトル数のグラフ（図 22）から概観できるように、V&A Museum の創設期から 1960 年代末までの間には、年間の発行タイトル数が 20 冊を超えた年は極わずかしかなかったが、1967 年から 1996 年まではほぼ毎年 20 冊以上のタイトルを発行するようになった<sup>8</sup>。このことは企画展覧会の年間開催件数が 1968 年に始めて 20 件を超えて、それ以降急速に拡大していったことと対応している。そして 1968 年から 1978 年までの 10 年間はほぼ毎年 40 冊以上が出版された<sup>9</sup>。特に 1978 年は年間の新刊書が 101 冊となり、100 冊を超えた。しかし 1979 年以降はこの傾向に歯止めがかかり、年間の新刊書は概ね 20 から 30 冊程度となった。そして多い年でも 50 冊を越えることはなかった。

次に 2 つの世界大戦の影響について考察する。第一次世界大戦の初期は年間 10 冊以上の発行があったが、後半になると一桁になってしまったことが判る。しかし第二次世界大戦になると、1939 年に 7 冊あった新刊書が、1941 年から 1946 年には毎年 1 冊に激減してしまった。戦火が激しかった 1944 年には 1 冊も出版されなかった。この期間、企画展覧会は細々とだが毎年開催された。このように V&A Museum は何とか戦火をくぐり抜けた。ここに企画展覧会開催と出版物刊行を何とか継続した当時の人々の確固たる信念と、職務に対する忠実な姿勢を垣間見ることができる。

#### 4.2.3 V&A 以外の出版社による書籍

図 23 は 1852 年から 1996 年までの間に、「V&A Museum に関連があるが、V&A 以外の出版社によって発行された書籍」の年間発行タイトル数をグラフにしたものである。上記の図 22 と比較するとグラフの山の形状が一致していないことが判る。このことは、V&A 以外の出版社が V&A Museum の出版活動を上手く補完してきたことを示している。1852 年の創設以来 V&A 自身が 1 冊も発行できなかった 1944 年でさえも、V&A 以外の出版社が 1 冊を発行していることから理解されよう。尚、図 24 は 1852 年から 1996 年までの V&A 関連書籍全体の発行タイトル累計数の推移を示したものである。

### 5. おわりに

V&A Museum の教育普及活動は調査研究が核となり、それを触発が取り囲んでいる。

このように V&A Museum は、デザイナーと観衆を触発することによってデザイン産業振興の場となっている。また現在進行中の「将来計画」では、各ギャラリーの観衆の学習タイプを「分析的」、「想像力豊か」、「常識的」、「経験から判断」と分類し、各学習タイプは「観察」、「考察」、「行動」、「感覚」の4要素のうち2つを合わせ持つと考えている。そしてこれらの要素を満たす様々な工夫がされている。

V&A Museum の過去 150 年間の企画展覧会は、その 85% が西ヨーロッパおよび英国の装飾芸術とデザインに関連したものであった。ここに英国政府の国立芸術デザイン博物館という「地域的制約」が表れている。「材料分野別」では、絵画、素描、イラスト、写真、版画、印刷、書籍、デザイン資料など「デザイン」関連の展覧会の合計数が全体の半数近くであり、家具・繊維・ファッションと彫像・陶磁器・ガラス器・金属細工という「装飾芸術品」関連の展覧会の合計数は全体の 1 / 4 程度であった。

V&A は必ずしも企画展覧会図録ばかり発行していた訳ではなかった。約 3 / 4 は収藏品カタログとその改訂版、収藏品研究、収藏品分野関連研究などであった。また V&A Museum の企画展覧会のすべてについて展覧会図録が作成された訳でもなかった。そして V&A 以外の出版社が V&A Museum に関する書籍を出版した機会は、その殆どが企画展覧会と連動する場合であった

V&A Museum の常設展示、企画展覧会、出版物には、以上のような装飾芸術とデザインに対する英国の芸術文化政策の特質があることが判った。

## 注

- 1 例えば、クリーヴ・D・エドワーズの『18世紀家具』、『ヴィクトリアン家具』、『20世紀家具』ではスタイルと共に材料や技術に関しても同程度に考察されている。
- 2 1999年にはファッション・イン・モーションが8回開催されたが、1回に2名のデザイナーが特集されたことがあったのでファッション・デザイナーは9人特集された。
- 3 英国のロココ様式は1730年頃～1770年頃、シノワズリ様式は1750年頃～1765年頃。
- 4 英国の中国・インド様式は1800年頃～1830年頃。
- 5 分野別集計の文書画像には、アジア地域を含む全世界の地域が含まれている。
- 6 1909年に博物館増築部分の建築がオープンした年には V&A Museum ガイドが出版された。
- 7 V&A が出版した書籍と企画展覧会とのクロスリファレンス集計では 556 と 587 という結果であった。V&A 以外の出版社が発行した書籍と企画展覧会とのクロスリファレンス集計では 381 と 384 という結果であった。
- 8 但し 1988 年は 19 冊、1989 年は 15 冊であり、両年は 20 冊未満であった。
- 9 但し 1970 年と 1974 年を除く。

## 引用・参考文献

- ・ エリザベス・エスティヴ＝コール（田辺徹訳）、『ヴィクトリア & アルバート美術館—SCALA / MISUZU 美術館シリーズ 8』、東京、みすず書房、1992.
- ・ JAMES, Elizabeth (Compiled), *The Victoria and Albert Museum: A Bibliography and Exhibition Chronology 1852-1996*, London / Chicago, Fitzroy Dearborn Publishers, 1998.

- V&A Collections 2003, *Collections Management Policy*, London, Victoria and Albert Museum, 2003.
- WILK, Christopher & HUMPHREY, Nick (eds), *The Making of the British Galleries at the V&A: A Study in Museology*, London, V&A Publications, 2004.